

陸平貝塚で縄文時代を学ぶ



国史跡陸平貝塚に隣接する文化財センターにある展示室では、出土した資料を通して縄文時代や陸平貝塚を中心とした美浦村の文化財について紹介しています。今年度も村内や近隣の小学校が見学に訪れています。陸平貝塚の見学では発掘調査の成果をもとに復元した竪穴住居の中に入って、現在の家との違いを体感していただいています。

現在、展示室では、陸平貝塚に隣接するおかだいらゴルフリンクスの敷地内にあった2つの遺跡（木の根田遺跡、内出遺跡）も紹介しています。発掘調査により、陸平貝塚周辺の台地は縄文時代や古墳時代に住む場所として利用されていたことが確認されています。他地域の影響を受けた資料や当地域でまが玉等を作っていたこと、時代の変化に伴う道具やイエの構造の変化など出土品を通して知ることができます。ほかに、ふれ愛ブラザ付近にあった大谷貝塚の貝層剥ぎ取りやトレセンの乗馬苑にあった信太入子ノ台遺跡出土の蔵骨器（県指定、平安時代）が展示されています。皆さんのお越しをお待ちしております。

展示室は、文化財センター開館日の9:00～17:00まで自由に見学できます。（展示替え等で休室になることもあります。）

「美浦かるた」で知るみほの文化財

今回の札は
「ぬ」

ぬしは我 木原ばやしの 道化役

お囃子といえば、木原城山まつりや産業文化祭、木原祇園祭などでも私たちを楽しませてくれる木原霞ばやし会の「おかめ・ひよっこ」が思い起こされます。

おかめは丸顔で、額が高く、頬がふくれ、鼻の低い女の仮面。ひよっこは火を吹く時の口をすばめて曲げたような表情で、ヒョトコ（火男）から転化したといわれています。面は潮吹面ともいい、道化役として踊りの場面で登場します。おかめは福を招く神、ひよっこは火を守る神として、家庭円満を表現しています。

お囃子は祭に付随し、笛や太鼓、鉦などで賑やかに奏でることにより悪霊をおびきよせる重要な役割を担っています。毎年7月下旬におこなわれる祇園祭は疫病退散を祈願する祭りで、山車の上でお囃子が奏でられます。

村内では木原、本橋・定光（一部）、舟子で祇園祭が行われていますが、かつては山王、端山、大山でも祇園祭が行われていた記録があります。

木原の祇園祭は上宿、浜、登宿、後宿の4町内の

若い衆が中心となり、楯縫神社で神輿に御霊を入れ

（発輿祭）、天王道を通って各地区を回り、当番の地区に設けられた仮宿に安置します。当番の地区は竹や縄、幣帛で町内を飾り準備をします。山車を持っている浜と登宿が当番の年は、山車の上でお囃子とともにひよっこ踊りなどが行われます。以前は石岡からお囃子がきていました。

本橋・定光（一部）、舟子の祇園祭は小学生の男が中心に行われていましたが、少子化に伴い近年では中学生や女子も参加しています。両地区とも神輿を担いで家々を回り御札を渡してお金をもらつたど似ている部分も見られます。時代の変化により各家へはかなり以前からリヤカーに神輿をのせて回っています。祇園祭が近くなると本橋地区に八坂神社と書かれた幟が建てられます。

いずれの祇園祭も宵祇園、本祇園、送り祇園と3日間行われていましたが、近年は変わってきているようです。

今年も祇園祭の季節が近づいてきました。



ぬ
ぬしは我
きはら
木原ばやしの
どうけやく
道化役

引用参考文献

「茨城県の祭り・行事―茨城県の祭り・行事調査報告書―」茨城県教育委員会 2010年
「平成2年度民俗探訪」国学院大学民俗学研究会 1991年

「美浦かるた」は、共に輝くみほの会（美浦村女性行政推進協議会）が制作した美浦村の魅力を紹介したかるたです。

子育て・教育→図書室→美浦かるた で検索！

<https://www.will.miho.lg.jp/page/page001902.html>

ぼんづな 盆 綱

～土屋地区に残るお盆行事～

盆綱は、茨城・千葉両県にまたがる地域と九州北部に分布するお盆の行事のひとつです。

子供たちが龍や蛇を模した藁の綱を曳いたり担いだりしながら、先祖の霊（仏さま）を送迎する習俗で、仏迎えのみ行う集落が多いようです。

美浦村においては土屋地区のみにみられ、8月13日に迎え盆だけ行っています。地区の協力をいただいて、平成27年に村が、令和元年に県が実施した調査から土屋地区の盆綱をご紹介します。

<準備～綱を編む～>

1週間程前に大人4名が藁で長さ5m、太さ20cmほどの綱を、注連縄状に編みます。子供が大勢いた頃は綱の長さがもっと長かったそうです。藁は田んぼを作っている家から提供されていましたが、現在はJRA美浦トレーニングセンターからいただいているそうです。



<盆綱～仏迎え～>

小学1年から中学3年（6歳から15歳）までの男子が行います。

8月13日、午前8時頃に集まり、共同墓地を起点に、綱を持って100軒以上の家を回ります。子供だけで回っていましたが、現在は安全面から大人が随行しています。

子供たちは盆綱を抱えて、最初に共同墓地の中を「ホートケサーマ、アガラッセ」と調子よく繰り返し唱えながら3周して仏さまを綱に乗せ、各家に向かいます。

各家に着くと「ワッショイ、ワッショイ」のかけ声と「ホートケサーマ、オリラッセ」と調子よく唱えながら庭を回ります。各家では子供たちにお駄賃



を渡したり、新盆の家ではおにぎりを渡したりします。

最後の家を回り終えると、子供たちは盆綱を引きちぎっていましたが、現在、綱は墓地に保管し翌年回収して焼却しているそうです。回り終えるのは、昔は夜中の1時位までかかったそうですが、平成27年の調査時は午後11時頃、令和元年の調査時では午後7時頃と変わってきています。

各家でもらったお金は子どもたちで分配し、解散します。

<仏送り>

盆綱で家に迎えた仏さまは、8月15日に各家が提灯を持って墓地に送ります。

県の調査報告書によると、土屋地区の盆綱は近隣の阿見町君島、石川、大形、飯倉などとともに関東川水系のまとまりに含まれるようです。

「盆綱」は我が国の文化を考える上で大変貴重なものですが、その実態は不詳で、近年、少子高齢化が進み、地域のつながりが疎遠になるなかで年々おこなわれなくなる地域が増えています。このようなことから「東関東の盆綱」は、茨城・千葉両県にまたがる先祖送迎の盆行事として、平成27年に国選択無形民俗文化財（記録作成の措置を講ずべき無形の民俗文化財）となりました。

[引用参考文献]

「東関東の盆綱」総合調査報告書（茨城県編）茨城県教育委員会 令和5年（2023）3月

※写真は平成27年調査時撮影

「小澤家住宅」茅葺屋根修繕への 東日本鉄道文化財団の助金決定

国登録有形文化財「小澤家住宅」は、当地域の名主屋敷構えを今に伝える貴重な茅葺民家です。当家人にて定期的な茅葺屋根の葺き替えが行われ、現在まで良好な状態を維持してきました。しかし近年、台風や大雨などの影響で、主屋の北側及び西側の屋根の傷みは著しくなり、屋根の葺き替えが急務となっていました。この度、費用の一部に公益財団法人東日本鉄道文化財団地方文化事業支援の助成を受けられることが決定し、さる5月、同財団より小澤家に助成の承認書が贈られました。

小澤家住宅は今年度中に屋根の葺き替えが行われる予定です。葺き替え作業期間中に見学の機会も予定しています。広報でお知らせをしますので、その際にはぜひご参加ください。



★文化財センター夏の体験のごあんない★

予約不要

受付時間 10:00～14:00

※土器作りは9:30～

体験 有料

- 8月15日(火)～18日(金)
 - ・まが玉
 - ・どんぐり時計
 - ・どんぐりカレンダー
 - ・さき織り(小学4年以上)
- 8月19日(土) 縄文土器・土笛
- 8月20日(日) 縄文クッキー

要予約

「昔の暮らしを知る体験」(全3回)

繭から糸を引いたり(絹糸)、綿から糸を紡いだり(木綿糸)、機織り機で織る(さき織り)ことを体験しながら昔の暮らしにふれてみよう!

① 8月5日(土)午前 絹糸

② 8月6日(日)午前 木綿糸

③ 8月15日(火)～8月18日(金)の希望日(2時間) さき織り

参加対象 小学4年生～中学生(5組) ※小学生は大人同伴

参加費 300円

申込期間 7月4日(火)～7月29日(土)(先着)



梅朝基礎落語

好文亭梅朝さんの落語で
楽しいひとときを!



◆日にち 9月3日(日)

◆開演 午後1時30分から

◆場所 文化財センター

※当日、直接文化財センターにお越しください

★過去の梅朝基礎落語は、YouTubeで
ご覧いただけます。[梅朝基礎落語](#)で検索!

<情報をお寄せください!>

美浦村の歴史に関する
資料を探しています

文化財センターでは、地域の歴史に関する資料を収集・保存し、後世に伝える活動を行っています。美浦村の歴史に関する古文書や絵図、地図、写真等、また古い襖(古文書が使われている場合があります。)などがありましたら、処分する前に文化財センターへご一報ください。

また、鹿島海軍航空隊に関する記録や写真、情報(伝聞など)もお寄せください。



◆お問合せは、文化財センターへ

☎029-886-0291